

レジメン名称: mFOLFOX6+オブジーボ

胃癌

ID _____ 患者氏名 _____ 様 (性別 _____)
 身長 _____ cm 体重 _____ kg 年齢 _____ 歳 体表面積 _____ m²

薬剤	投与量	投与日
		1 コース 2 週間 Day 1.....15(=Day1)
オブジーボ	240 mg/body	↓
オキサリプラチン	85 mg/m ²	↓
レボホリナート	200 mg/m ²	↓
フルオロウラシル bolus	400 mg/m ²	↓
フルオロウラシル 持続	2400 mg/m ²	↓ 1 日目から 46 時間持続投与

レジメンオーダー以外に必要な処方

必要時（制吐剤予防投与）：day2～：デキサメタゾン（デカドロン）4～8mg 1×朝 2日間 内服

注意事項

オブジーボのルートにはフィルター付き輸液セット（ニプロフィルターセット STFPG-20BRCG）使用

オブジーボ：インフュージョンリアクション（気管支痙攣、蕁麻疹、低血圧、意識消失、ショックなど）に注意。

初回および8週以上あいた時：心電図モニター、BP、HR などの確認の必要あり（詳細は投与方法の項を参照）

CV ポート使用時は、微粒子発生リスク低減のため、レジメンどおりに生食でルートキープし、オブジーボはレジメンどおりの希釈濃度で投与してください。

オキサリプラチンとレボホリナートは同時投与です。

特に注意する副作用

間質性肺疾患、重症筋無力症・心筋炎・筋炎・横紋筋融解症、大腸炎・重度の下痢、1型糖尿病、免疫性血小板減少性紫斑病
 肝機能障害・肝炎、甲状腺機能障害、神経障害、腎障害、副腎障害、脳炎、重度の皮膚障害、静脈血栓塞栓症
 インフュージョンリアクション

投与方法：1日目～			
1	生食 100mL ケモセーフロックの点滴セットを使用 メインルートにつなぎ、プライミング 点滴筒（チェンバー）を 3/4 程度満たし、メインルートを止める		
2	生食 50 mL 下の側管から プライミング フィルター付き輸液セット（ニプロフィルターセット STFPG-20BRCG）使用		
3	オブジーボ 240 mg , 生食 40 mL (生食 100 のボトルを使用) フィルター付き輸液セット使用 30 分かけて点滴、下の側管から投与 初回および 8 週以上あいた時、下記を実施 心電図モニター 投与前、5 分後、15 分後、終了時後：BP、HR 測定 投与前、5 分後、15 分後、終了時後：全身状態の確認（呼吸苦、悪寒、発疹、掻痒感、気分不良、嘔気）		
4	生食 50 mL 下の側管から、ゆっくり、ウォッシュアウト、15 分間、残破棄可		
5	グラニセトロン 3mg/100mL 1V、デキサート(3.3mg/1.0mL) 2A 30 分かけて点滴、下の側管から投与		
6	<table border="1"> <tr> <td> レボホリナート _____ mg, 5%ブドウ糖 500mL (必ず 5%ブドウ糖で) 120 分かけて点滴、下の側管から投与 オキサリプラチンと同時に開始 </td><td> オキサリプラチン _____ mg, 5%ブドウ糖 250mL (必ず 5%ブドウ糖で) 120 分かけて点滴、ケモセーフロックのルートから投与 レボホリナートと同時に開始 </td></tr> </table>	レボホリナート _____ mg , 5%ブドウ糖 500mL (必ず 5%ブドウ糖で) 120 分かけて点滴、下の側管から投与 オキサリプラチンと同時に開始	オキサリプラチン _____ mg , 5%ブドウ糖 250mL (必ず 5%ブドウ糖で) 120 分かけて点滴、ケモセーフロックのルートから投与 レボホリナートと同時に開始
レボホリナート _____ mg , 5%ブドウ糖 500mL (必ず 5%ブドウ糖で) 120 分かけて点滴、下の側管から投与 オキサリプラチンと同時に開始	オキサリプラチン _____ mg , 5%ブドウ糖 250mL (必ず 5%ブドウ糖で) 120 分かけて点滴、ケモセーフロックのルートから投与 レボホリナートと同時に開始		
7	フルオロウラシル _____ mg , 生食 40mL 全開で投与、ケモセーフロックのルートから投与		
8	1 の生食を使用し、ウォッシュアウトゆっくり、適宜途中終了可、残は破棄		
9	フルオロウラシル _____ mg , 生食、全量 210mL 5 mL/時、46 時間かけて ケモセーフセットを外して、インフューザーポンプにて投与		